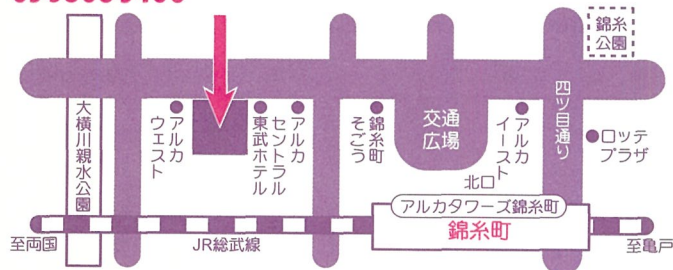


日本電子音楽協会 第8回 定期演奏会

2001年6月14日(木)
18時30分開場・19時開演

すみだトリフォニー〈小ホール〉

03-5608-5400



入場料:3,500円

主催: 日本電子音楽協会

助成: (財)ローランド芸術文化振興財団

協賛: YAMAHAエレクトーンシティー渋谷
全日本電子楽器教育研究会

問い合わせ先: 日本電子音楽協会(岩崎) 042-923-6450

大河内
俊則

「そこにはまだ何も無い」
"Nothing is still there"

パフォーマンス: 安藤伸

山田香

merge
《招待作品》

桃井聖司

「飛龍天翔」
尺八とコンピュータのための

尺八: 藤原道山

岩下哲也

Space Oddessay 2001

打楽器: 酒井聡

吉原太郎

コスモ
COSMO

エレクトーン: 山本雅一 / CG製作: 井坂健一郎 / コンピューター: 吉原太郎

宮木朝子

Sweeter than...
-sound installation

映像: 兼古昭彦

栗橋寛子

「飛沫」- splash
《招待作品》

水野
みか子

光の扉に(ひかりのとびらに)
To the Luminous Door

薩摩琵琶: 北川鶴昇

日本電子音楽協会 第8回 定期演奏会

2001年6月14日(木)

すみだトリフォニー〈小ホール〉

主催：日本電子音楽協会

助成：(財)ローランド芸術文化振興財団

協賛：YAMAHAエレクトーンシティー渋谷

全日本電子楽器教育研究会

○プログラム○

大河内俊則

「そこにはまだ何もない」
"Nothing is still there"

パフォーマンス:安藤伸

山田香

merge
[招待作品]

桃井聖司

「飛龍天翔」
尺八とコンピュータのための

尺八:藤原道山

岩下哲也

Space Oddessay 2001

打楽器:酒井聡

休憩

吉原太郎

コスモ
COSMO

エレクトーン:山本雅一/CG製作:井坂健一郎/コンピューター:吉原太郎

宮木朝子

Sweeter than...
-sound installation

映像:兼古昭彦

栗橋寛子

「飛沫」- splash-
[招待作品]

水野みか子

光の扉に(ひかりのとびらに)
To the Luminous Door

薩摩琵琶:北川鶴昇

音響:サウンドクラフト
Design by Mayumi MORI

■「そこにはまだ何もない」 "Nothing is still there"

◇プログラムノート

期限というものがないと、いつまでたっても出来ないのは、かれこれ20年来の悪癖である。その悪癖と戦うために手は上げてみたものの、いつもなら、作りたいモノがありながら日々をうっちゃっているのだが、今度は、曲名を決めねばならない時点でも全くのお手上げであった。ならばと事実を挙げてそこから引っ張り出すことにしてみた。

◆大河内俊則

1963年 三重県生まれ。

舞台音楽や施設音楽の制作を中心として活動している。愛知県在住。

◆安藤伸(パフォーマンス)

1963年 愛知県生まれ。

愛知県立大学美術学部彫刻科卒業。在学中より劇団森王、少年王者にて舞台美術を製作。

1985年 筑波万博パビリオン講談社ブレインハウスにてオブジェ製作。

1994年 犬堂一心監督映画作品「二人がしゃべっている」美術担当

1999年 フリー・ノイズ・ミュージシャン桑山清晴氏とコラボレーション開始。

lethe voice festival vol.1(名古屋港アートポート)

名古屋デザインフェスタにて 国際デザインセンター賞受賞。

2000年 岡山市新庄村にて、音フェスタワークショップ参加。

名古屋国際デザインセンター(ナディアパーク)にてアートプロジェクト Exhausts sound projectを発表。

lethe voice festival vol.2(名古屋港アートポート)

大河内俊則

■merge [招待作品]

◇プログラムノート

憧れの芸大に入学して電子音楽に興味を持ち昨年度より本格的に勉強を始めました。何をするにも初めてで右も左も上も下も分からずすべての事が「挑戦」でした。この作品は山田香初の電子音を使った作品でYAMAHAのTX802を使用しました。

題名の“merge”には
→[二つのもの]を一つにする;…を(…に)溶け込ませる、同化させる
という意味があります。

この作品は左右のスピーカーから出てくる音声(以下左、右と略)が、ある時は左から紡ぎ出される音を時間差で右が真似したり、ある時は左とは全く逆のことが右から行われたり、ある時は左から右へ移動したりします。また、音の高い・低い、音の動きの速い・遅い、音の大きい・小さい…など対照的な2つの要素を一つの空間に溶け込むように試みてみました。

このような大きな空間で思いがけず初演できることを大変嬉しく思います。

最後にこの作曲に際してご助言頂いたたくさんの先生に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

◆山田香

1978年生まれ。

国立音楽大学附属音楽高等学校作曲科首席卒業。

東京芸術大学音楽学部作曲科4年に在籍中。

作曲理論を山本康雄、西岡龍彦、佐藤眞、福土則夫、電子音楽を南弘明、岩下哲也、岩崎真、の各氏に師事。

第12回かぶらの里童謡祭最優秀市長賞(橋本暮村賞)受賞。

最近、生田流箏とガムランをととても楽しくやっています。

山田香

■「飛龍天翔」 尺八とコンピュータのための

◇プログラムノート

コンピュータの奏でる電子音と、和楽器の代表的存在である尺八が対峙するとき、そこには何が生まれるだろうか？

現代と古代、西洋と東洋、2つのベクトルが交錯しぶつかり合うことによって創られたエネルギーが、異次元へと昇華していく…、それは正に、天と地の間を翔ける龍が雷雨や暴風を体に受けながら、空高く昇りつめていくさまに准えることができるであろう。そんなインスピレーションから作曲を始めた。

尺八の独奏から始まり、エフェクト処理された尺八の音やサンプリングされた尺八の音が重なっていく。途中、尺八とコンピュータのかけあいによる即興部分をはさみ、さまざまな電子音が覆いかぶさって、クライマックスを形作る。

電子音の素材の選定にあたっては、具象的なものから抽象的なものまで、あるいは西洋的なものから東洋的なものまで、対極的な要素を曲に内包させるよう心がけた。また、音楽の4chオーディオ再生と、映像との同期(自作の映像のため凝ったことはしていないが)も試みた。

【使用機材】

Apple Power Macintosh G4

NEC LM700J/62DH

Emagic Audiowerk8、Logic Audio Platinum、EXS24

Roland VP-9000、VP-70、JV-2080、VM-3100Pro

AKG C-420L

REXER RZT-80M、RZR-810

◆桃井聖司

1967年愛知県生まれ。愛知県立芸術大学で作曲を専攻。同学中退後、音楽制作会社勤務などを経てフリーに。マルチメディア・タイトルや、ゲーム、CM、ビデオなど各種メディアにおける音楽制作を担当。1997年にEnsemble Eurhythmicsの委嘱により、リトミックのための楽曲「Three Elements」を、1999年には新たな試みとして、リトミックと電子音楽の融合を図った「…楽園の愉悦」を作曲。その後も、女声とコンピュータのための「Motet XX」(2000)、尺八・二十絃箏・十七絃箏のための「音鏡三趣」(2001)と、意欲的に作品を発表している。また一方で各種イベント、講習会において、電子音楽や電子楽器に関するセミナー及びデモンストラレーションも行なっている。

◆藤原道山(尺八)

10才より尺八を始める。山本邦山師に師事。東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。及び同大学院音楽研究科終了。在学中、安宅賞を受ける。学内にて佐藤功太郎指揮、芸大オーケストラと協演。皇居内、桃華楽堂において御前演奏(宮内庁主催)。NHK邦楽オーディション合格。1999年「藤原道山尺八演奏会」を開催。現在、都山流尺八楽会師範。都山流邦山会、竹の会、日本三曲協会会員。胡弓の会「韻」同人、East Currentメンバー。邦楽のみならず、ジャンルにとらわれないあらゆる音楽活動を模索展開中。

桃井聖司

■Space Oddessay 2001

◇プログラムノート

今回は実に遅れ遅れで、周辺の方々にご迷惑をかけ続けました。

前回は、人々への想い出と、彼岸世界への思いを考えて作っていて、ある程度短期作業でしたが、今回は手こずっています。

4chに関しては、もう少し練ったことを組み立ててみたいと思い始めています。どうぞよろしく。

◆岩下哲也

1977年、東京芸術大学卒業。

東京芸術大学、昭和音楽大学、各講師。パーカッショングループ72メンバー。(株)APPO SOUND PROJECT 常務取締役。Roland渋谷センター、日本電子専門学校 各講師。日本電子音楽協会、作曲家の会「環」各会員。日本音響家協会、日本オーディオ協会、全日写連、各会員。

【作品】

シンフォニックブラスのための「黎明の時」、「雨の言葉」(立原道造) (SopとPf)
Memories in 1999 (Sopと電子音)、白い鳥、ゆず (日本記録映画研究所) など

【著書、訳書】

電子楽器と音楽制作、シンセサイザー、スコアリーディング (専門教育出版)
コードスタディ (Roland) など

【録音、PA】

題名のない音楽会、ウィーン室内合奏団、日本フィルハーモニー、芸大定期演奏会
草津国際音楽祭、武生国際音楽祭、など

◆酒井聡(打楽器)

1975年、東京芸術大学卒業。4歳よりマリimbaを吉川雅夫、水野与旨久両氏に、打楽器を小宅勇輔氏に師事。芸大付属高校より高橋美智子氏に師事し、現在に至るまで強い影響を受ける。

1972年、パーカッショングループ72の結成に参加。19回の定期公演の他、1980年ギリシャ国際現代音楽祭、草津国際音楽祭、武生国際音楽祭、等への参加から、FM放送を始めとしたレコーディング活動等、打楽器アンサンブルの分野にて演奏活動を広げる。

1994年よりマリimbaを主体とした「アンサンブル・アコルド」を主宰。サロンコンサートや親子音楽会等、地域の音楽活動に貢献する。

教育界での活動も幅広く、東京都立教育研究所講師、文部省指導者講習会講師、教科書編集委員等を務める。出版関係として、「打楽器の風景」(東京書籍)、「子供と音楽」(同朋社)、「ドラムセット教本」(書院ミュージック)、教育ビデオ「音と響き」(教育芸術社)がある。

岩下哲也

■コスモ COSMO

◇プログラムノート

本作品は映像作家・井坂健一郎氏とのコラボレーション作品であります。

映像は、私たちの身のまわりにある様々な事物が持ちうる小宇宙をモチーフとしている。人々が行き交う道や、乗り降りするエレベーター。個々の生命体が絡み合う様は、まるで宇宙が形成される過程にも似ていると言えよう。そのような状況をビデオ撮影し、作者自らの宇宙観で解体と再構築を試みたものが、この「COSMO」である。

音素材としてカリフォルニア大学バークレイ校SETI@home地球外生命探査プロジェクトより宇宙電波望遠鏡がとらえた宇宙空間に放出されている電波を音声変換した素材をお借りしデジタル処理を加えました。

本作品は昨年東京工科大学で開かれた情報処理学会第38回音楽情報科学研究会インターカレッジ・コンピュータ音楽コンサート2000に出品したものに若干の修正を加えたものであります。

最後にSETI@home主任研究員Dan Werthimer氏、David Anderson博士、また今回楽器を快く御貸し下さったヤマハ・エレクトーンシティ渋谷様、全日本電子楽器教育研究会様に深く感謝申し上げます。

◆吉原太郎(コンピューター)

杏林大学社会科学部卒業。昭和音楽大学音楽学部作曲学科卒業、同音楽学部研究科修了。山梨大学大学院教育学研究科音楽教育専修在籍中。

作曲を豊住竜志、藤原嘉文の各氏に師事。電子音楽を成田和子氏に指導を受ける。JSEM日本電子音楽協会会員、EMIES全日本電子楽器教育研究会会員、日本音楽知覚認知学会会員。

◆山本雅一(エレクトーン)

3歳より電子オルガンを始める。山梨大学教育学部音楽科卒業、同大学院教育学研究科卒業。これまでに作曲を藤原嘉文、中嶋恒夫に師事。

「現代の音楽展2001」公募コンサート『オーボエ・フェスタ』(日本現代音楽協会(JSCM)主催)に出品。

◆井坂健一郎(CG製作)

1966年、愛知県生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻を経て、筑波大学大学院博士課程芸術学研究科芸術学専攻に学ぶ。これまでに絵画、インスタレーション、写真等を制作し、個展及びグループ展での発表は50回以上を数える。その制作内容は、常に自己の身体と物質、そしてそれらが存在する空間に目を向けたものである。昨年より映像作品を手がけ、吉原太郎氏のコンピュータ音楽作品に視覚的なイメージを持たせるためCGを制作した。本作品では、日常空間の中での混沌とした人間の在り方を提示している。現在、山梨大学教育人間科学部講師(絵画・インスタレーション・映像メディア表現担当)。

吉原太郎

◇プログラムノート

この作品は、installation(展示)された音響という意の『sound installation』と『光の装置』ともいえる映像とによる、ひとつのノイズ的空間表現の試みである。Love&Distanceというキーワードにより選ばれた複数の音素材-映画の一場面からサンプリングされた恋人同士の会話、過去の時代に完成された某Lovesongの断片、時速300Kmで遠ざかるレーシングカーのエンジン音など、そうしたそれぞれに無関係な素材は、それぞれの性質に関連した距離-Distanceを内包している。”過去”という時間的な距離、映画のとある状況から切り離されて、文脈の無い空間に”展示”された会話、そこに生ずる二次的な距離。そしてそれらすべてに対して等距離を保ち、この作品の絶対時間を”計測”し続けるクリック音。”計測”される経過時間のなかで、無時間的な、informationの容器としての空間をイメージしてみた。そこで泳ぎまわっているのは、元はある文脈のなかでその役割をはたしていた”情報”であり、今回のキーワードと関連を持つ、ということから半ばランダムに選ばれた素材である。各素材は共通の性質をもつ無数のものから偶然に取り出されたものであり、この作品自体が、その数だけのremixを予感させる。

今回、音響と共に重要な役割を持つものが、映像である。音の”振動-反響”という性質に対して、映像の持つ”発光-反射”という性質に着目し、キーワードのみを共有しつつ、映像と音響、視覚と聴覚の差異を見出すこと、または映像-音響が共に、informationの器である空間から共通テーマに関連する素材をそれぞれが選びとり、互いの距離を測りつつ送受信を試みること、そんな意図のもとに、映像/美術作家の兼古昭彦氏と共同制作をおこなった。音と映像の融合、一致、という目的は持たず、あくまでも自律する異メディアとして互いを意識しての制作となった。

◆宮木朝子

東京都立芸術高等学校、桐朋学園大学音楽学部作曲専攻卒業。第八回現代音楽協会作曲新人賞入選。研究科修了作品として『エコラリー-3CELAN断章-電子変調されたソロソプラノ』を制作、以降ハードディスクに書記された音響ドキュメンタリーと称しての連作『Document-rhythm』、声とテキストによる連作『エコラリー(反響言語)』などの創作を開始。映像、バレエとの作品(映像:兼古昭彦氏)は東京/ミラノの現代音楽祭でとりあげられる。国内外からの委嘱も多く、現在WEB上の音情報を通じて、オランダ、ドイツ、イタリアの演奏家とのプロジェクト進行中。

◆兼古昭彦(映像)

東京生まれ。東京芸術大学修了。93年より平面作品の制作発表を始める。96年に映像制作を作曲家とのコラボレーション作品とともに開始し、平面作品の制作と平行して映像を取り入れたインスタレーション作品を発表。98年よりダンスカンパニー“レニバツソ”の映像を制作。2001年1月には同カンパニーのNY公演作品に参加した。99年、今回の作品の作曲者でもある宮木朝子氏との初共作“Boundary Air”を制作、東京、イタリアで発表した。また、同年よりライブハウスなどでの映像表現も数多く試みている。

宮木朝子

◇プログラムノート

「飛沫(しぶき)-splash-」は、船上から見た大海原の水面にヒントを得て作った作品です。ゆったりとした大きな波の動きに対する飛沫の水滴の一粒一粒は、まるで「動きのある点と線」とでもいうような関係に感じられました。

この作品は、その「動きのある点と線」の関係を意識し、飛沫の水滴のスローモーションをイメージしたひとつひとつの音色そのもの(「点」)の響きが次第に集まって「線」となり、それとは別の大きな流れを思わせる「線」的な響きの上に、それ自体の「線」をかもし出していき、一体化していく様子(全体として揺れ動く「線」になっていく様子)を、また、それらの音の空間の漂い方を、できるだけ動きをもって表現しようとアプローチしてみたものです。

私は一昨年より大学で電子音楽を始めました。まだまだ手探りの状態です。

この作品制作にあたり、未熟な私を丁寧に指導下さった南弘明先生、また、このような素晴らしい演奏会にご招待下さり作品発表の機会を与えて下さった、岩崎真先生をはじめ日本電子音楽協会の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

◆栗橋寛子

1997年 東京芸術大学作曲科入学。

1999年 芸大内推薦により「旧奏楽堂作曲科木曜コンサート」で作品が演奏される。

1999年 芸大で副専攻として電子音楽を始める。

2001年 東京芸術大学作曲科卒業。卒業時に芸大内においてアカンサス音楽賞受賞。

これまでに作曲を、高橋理文、佐藤真、近藤譲の各氏に、作曲理論、電子音楽を南弘明氏に師事。

現在東京芸術大学大学院音楽研究科作曲専攻1年次在学中。

2001年7月にはクラフト作家の杉崎友里氏、細川聡美氏、銅版画家のもたいかよ氏らによる三人展の音楽を作曲。幅広い分野での作曲活動を目指しています。

栗橋寛子

■光の扉に(ひかりのとびらに) To the Luminous Door

◇プログラムノート

琵琶という楽器には「聖なるもの」のイメージがある。哀しくもあり崇高でもあり、切々と語られる日本古来の物語に、琵琶が、目くるめく色彩と光りを与えていく。琵琶が差し挟む光りの七変化は、はるか時と空間を隔てた西洋中世の、ゴシック建築がかもし出す光りの幾何学のようにも感じられる。そのように神々しい琵琶と一緒に演奏するコンピュータ音楽作品を作りたい、という考えは余りにも大胆で不遜なものだ。空にも届くようなバベルの塔建設を試みた人々と同様、天からの諫めを受けたとしても不思議ではない。それでもあえて挑戦してみたかった。

琵琶は、明らかにピッチがあり、ピッチで語っていく楽器でありながら、同時に、撥の強さや糸の太さ、楽器の胴体のどこを鳴らすか、などが決定的な性格を作っていく楽器だと思う。エレクトロニクス側では、とにかく音色の選択と製作に腐心した。そして光りと色彩は……。

本日初演していただく琵琶奏者北川鶴昇先生には、先生の師である鶴田錦史先生の伝説的なエピソードをはじめ、数々の御指導をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

◆水野みか子

東京大学文学部美学芸術学科、愛知県立芸術大学音楽学部・同研究科を各々卒業・修了。名古屋市立大学助教授(音楽情報論)。

主要作品として、管弦楽作品《Showering Memory》《穀物の緑の波》、室内楽作品「ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための《DAN》」、「コントラバスとピアノのための《Koexistenz mit …》」、「能管とパイプオルガンのための《Space Prism》」など、ライブ・エレクトロニクス作品、「ソプラノとエレクトロニクスのための作品《diglvox》」、「チェロとエレクトロニクスのための《パンテオンの糸》」、「ピアニストとディスクラヴィアとコンピュータのための視聴覚作品《シュテファンの腕時計》」などがある。

海外では、パリのISEAやCERPS、ブルジュIMEB、ザルツブルグ大学、ハンガリー放送、ケルンとベルリンのGEDOKなどで作品が紹介されている。

論文に「IRCAM/Ircamのソフトウェア開発」「武満徹の音楽理念と鉄鋼館の設計構想」「ピッチ・クラス・セット理論は音楽について何を語ったか？」などがある。

◆北川鶴昇(薩摩琵琶)

武満徹作曲『ノヴェンバ・ーステップス』の琵琶ソリスト 鶴田錦史に師事。

前衛舞踏の大野一雄と「中村正義美術館」(川崎市)にて共演。人間国宝加藤貞男との会「シルクロードと琵琶」で共演。名古屋オペラ協会15周年記念オペラ『琵琶白菊物語』と連如上人五百回遠忌記念「母子の誓い」で作曲と演奏、1997年には日本演劇興業協会より表彰される。

2000年には重文指定「服部家住宅」でリサイタル形式の『観月琵琶の夕べ』で成功をおさめる。

水野みか子

お詫びと訂正

◇チラシの訂正

(誤) 栗橋寛子作品の演奏者「クラリネット:田淵恵実」
(正) 演奏者なし

(誤) 協賛の「全日本電子音楽教育研究会」という記載
(正) 全日本電子楽器教育研究会

一部のチラシが、上記のミスが訂正されないままの状態です。作曲者の栗橋寛子様、クラリネット奏者の田淵恵実様を始め、協賛をいただいた全日本電子楽器教育研究会様に、大変ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

日本電子音楽協会 会長 南弘明
事務局長 岩崎真